

令和3年 3月30日
琉球大学学長選考会議

国立大学法人琉球大学学長の業務執行状況の確認結果について

琉球大学学長選考会議は、国立大学法人琉球大学学長の業務執行状況の確認に関する申合せ（平成30年6月14日学長選考会議決定）に基づき、令和3年1月21日に、学長の業務執行状況の確認を実施した。確認は、学長による業務執行状況の説明及び委員からの質疑により行った。資料として学長が作成した業務報告書を参照した。

学長の業務執行状況の確認結果は、下記のとおりである。

記

学長は前回の業務報告書を提出した令和元年11月末以降これまで、「この変化する時代の要請に、高等教育機関としての大学の本質を堅持しつつ、確実に応えていくことを旨として業務執行にあたってきた」とし、特に「今年（令和2年）に入ってから国内でも大きな問題となった新型コロナウイルス感染症対応が、本学のこの1年の業務にかなりの比重を占めるとともに、その他の業務へも直接・間接の影響を及ぼした」ことから、「学長として、大学構成員ひいては地域の人々の命と健康を守るために、新型コロナウイルス感染症拡大防止を適切に図ると同時に、教育をはじめとする大学の本来業務を本学が最大限遂行すること」（「業務報告書」より）の観点により、学長としての業務に取り組んできた。

具体的に行ってきた主な業務は別添「業務報告書の概要」のとおりであり、特に、新型コロナウイルス感染症対応として、危機対策本部を設置し、教育・学生・診療の支援に注力しつつ、大学運営として、国立大学法人ガバナンス・コードへの対応や総合情報処理センターの情報基盤統括センターへの改組などを遂行した他、地域貢献活動として、首里城再興にも意欲的に貢献しようとしている。

加えて、コロナ禍の非常に困難な中しなやかなリーダーシップで、理事・副理事等に適切に職務を割り振り、各自の能力を生かし、それを統括し、SDGsやダイバーシティ等の新しくベーシックな課題に対しても積極的に推進策を講じている。

よって、学長は現在に至るまで、その業務を適切に執行していると認められる。

以上

【学長選考会議における主な所見】

- ・ウィズコロナ、アフターコロナを生き抜くため、大学に対して特に強いリーダーシップが求められている中であって、適切に業務運営がなされている。
- ・大学としての個性を発揮しながら、一方で国からの運営交付金を絡めた要求にも応えるなどうまくハンドリングを行っている。
- ・学内のいろいろな部局や学部等に細かく目配りをしながら大学全体の方針を決めていくという点で、しっかり統括している。
- ・学長と学部長等間のコミュニケーションも取れており、円滑に運営している。
- ・年俸制、イノベーションイニシアティブ及び総合情報処理センターの改組等多彩な新しい事業の取組によって、大学が改善され、今後良くなっていくことが期待できる。
- ・大学の経営が非常に大事になるなか、上原キャンパス事務部に企画・研究推進室を設置し、体制の強化を図っており、今後更なる外部資金の獲得が見込まれる。
- ・教職員の働き方改革、国立大学改革方針等、時代が新たに大学に求めているものにも対応を始めており、高く評価する。
- ・国立大学法人ガバナンス・コードの促進について細かくチェックしており、さらに前進するという姿勢が見られる。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響が出始めた令和2年4月の時点で、学長が対面授業を行うと宣言し、当初学部等の現場が混乱した。総合大学である本学では各部局の抱える問題は一樣ではなく、現場ではそれぞれの事情を踏まえ知恵を絞って対応しているので、学長は広く意見を吸い上げた上で判断頂きたい。
- ・教員ポストが削減される中、コロナ禍により取り入れたオンラインの良いところを活用し、各部局が協力しやすい教育カリキュラムや研究体制を維持していただきたい。
- ・若手教員の確保の具体的なビジョンについては、戦略的に実行していくことが今後求められる。
- ・首里城再興に係るプロジェクトが、より発展、進化した首里城が再建されることに寄与されることを期待している。
- ・着々と病院の再開発の準備もしており、地域に貢献できるような琉球大学になり得る可能性が高い。今後の学長の頑張りに期待したい。
- ・女性教員が全学の仕事に参加するようになっており、できる限り多様な意見を聞くという面でもかなり評価している。
- ・これからの時代、学習を深める学生のためのICTの向上は、社会の競争力に大きく関わってくる。効果的な取組を継続していただきたい。
- ・地域から頼り甲斐のある大学をどのように作っていくのかを期待している。
- ・コロナの影響などの困難な環境下において、沖縄県の将来を担う人材育成に尽力している。